

徳島子どもと教育

徳島県教職員の会
〒771-0017徳島市川内町鶴島115
黄金ビル 徳島労連事務所内
TEL 088-665-6644
FAX 088-665-2117
携帯 090-2891-5189
eメール dp12287892@pf.lolipop.jp
2019年6月15日 No.237

徳島県母親大会に350名

第59回徳島県母親大会が、6月2日、350人が参加して開催されました。徳島県教職員の会は、第1分科会「子どもたちに『幸せに生きる力』を育てよう」～コスタリカに学ぶ～」を担当しました。

参加した会員の感想を紹介します。

第1分科会 子どもたちに「幸せに生きる力」を育てよう-コスタリカに学ぶ～に参加して

「軍隊をなくし軍事費をゼロにして教育にかける」というコスタリカの国をあげての政策を信じられない思いで聞きました。「日本には世界に誇る平和憲法がある。だけど日本は作っただけ」そんなくだりもあったと思います。同じように戦争をしない、軍隊を持たないと誓った平和憲法を持ちながら、なんで日本とコスタリカはこんなに違ってしまったのかを考えました。

分科会の中で、「自分が大切にされていると感じた子どもには勇気が湧いてくる」「子どもが一步を踏み出そうとするとときに

- ① 自分でやってみようとする気持ち
- ② 支え、応援してくれる誰か
- ③ またチャンスはあると思える余裕

の3つが必要」という提案がされましたが、今の日本国民は、「米軍基地は要らない」と自ら主張しても無視され、個人の尊厳を否定するかのようには賃金や年金が減らされ、「結果を出せ」と追い詰められています。こんな状況の下では、コスタリカの子どもたちのように「自分が主権者なのだ」という気持ちを持って、権利を主張し、相手を尊敬し、話し合いを大切にする人間に育っていくのは無理だと思いました。子どもたちだけではない、日本の大人も含めてみんなが元気で生きていくために、今の政治を変えたいと強く思いました。
(障害児ブロック H)



子どもの作品を使って自衛官募集を呼びかける 「徳島県自衛官募集啓発ポスターコンクール」継続に抗議

徳島県は、県内の中学生・高校生などが戦車や戦闘機・軍艦などを描いて自衛官募集を呼びかける「ポスターコンクール」を実施してきました。教職員の会の問い合わせに対し県は、このコンクールを本年度も実施することを明らかにしました。

教職員の会の調査では、このような異常な取り組みをしている都道府県は徳島県以外にはありませんでした。県に対し、学校や子どもたちを利用して自衛隊員の勧誘活動をする異常な取り組みを中止するよう強く求めました。

県議会に県署名と県請願書を提出

ゆきとどいた教育をめざす徳島県連絡会は、5月下旬に、徳島県議会に対して県教育署名 1000筆（昨年度の取り組み）とともに「ひとりひとりを大切に徳島でゆきとどいた教育を求める請願書」（右図参照）を提出しました。これで県議会への提出は8年連続となりました。また、3月下旬には全国署名を全国のゆきとどいた教育をすすめる会に970筆ほど届けました。ご協力いただいた県民のみならず、ありがとうございました。

ひとりひとりを大切に
徳島でゆきとどいた教育を求める請願書

請願の趣旨
いま学校現場は、多忙をきわめる教職員の労働状況の中で、教師は子どもと向き合う時間を確保することが難しくなっています。また、貧困と格差が子どもたちの家庭を直撃し、教育の機会均等が保障されず、保護者の負担が重くなっています。こうしたゆとりのない、不安の多い教育環境で一番しわ寄せを被るのは、ほかならぬ子どもたちです。子どもたちのひとりひとりが大切にされ、安心して学べるよう、以下の項目について、きちんとした財政的措置をとるよう具体化を強く請願します。

請願事項

1. 県独自に正規採用教職員を増やし、小・中学校の30人以下学級を実現すること。
2. 体育館等の施設を含めた学校関連施設の耐震率100%を早期に実現すること。また、巨大地震による津波に対して子どもたちの安全な避難場所の確保をすること。
3. さらなる就学援助の拡充や私立高校の高校授業料減免制度の適用を拡大すること。また、給付型奨学金制度を拡充すること。
4. 特別支援学校の過大・過密を解消するために学校・学級数を増やすこと。
5. 全ての県立学校にエレベーターを設置すること。
6. 給食費などの義務教育費無償化を国にはたらきかけること。

教職員の会総会・納涼会のご案内

☆総会：8月17日(土) 13:30～
・徳島市ふれあい健康館 第4会議室

☆納涼会：8月17日(土) 18:00～(予定)

